

★あつたらしいなのサービス作り★

ゆう通信

認定特定非営利
活動法人

グループ
ゆう



『あつまりの時間』



写真：仙台市サンホーム『あつまりの時間』の様子

サンホームでは朝のあつまり、帰りのあつまりの時間があります。

この日のあつまりで使用している視聴覚教材は、【月ようびはなにたべる】です。一定のリズムに合わせて動物や食材が繰り返し登場するため、子どもたちはよく見ています。お子さんによっては、リズムに合わせて身体を左右に揺らして注目することもあります。楽しい雰囲気の中で友だちと一緒に絵本を見る、そんなひとコマです。

(仙台市サンホーム：佐藤 春香)

— 目 次 —

第25回 定例総会の報告／新・理事就任の挨拶	P2~3
5領域・療育プログラムの紹介：仙台市サンホーム	P4~5
外部講師によるコンサルテーションと法人研修の報告	P6~7
スタッフリレー／第19走者：仙台市サンホーム 石川 久瑠未	P8
ご寄付のお礼	P8

第25回 定例総会のご報告

事業報告

2024年度の振り返りと今後に向けて

- ① 事業の収支バランスについて… 中期計画の最大の課題であった赤字決算の改善に関しては、職員全員の努力により、減価償却の計上と微増の余剰金を計上する事が出来ました。2025年度は、改善半ばの事業の改善に取り組んでまいります。
- ② 人材の確保について…サービスの利用ニーズに対して、迅速に担い手を確保して対応することができない状況が続いている。職業人口の減少に加え、他の職業対比での福祉業の賃金の低さ、制度改正の度に厳しくなる職員の資格要件等が複合的に影響していると考えられます。社会的課題として関係機関と連携して取り組むとともに、法人の職場環境や賃金の改善方法を全員で検討していきます。
- ③ 支援の質の向上について…設立以来、「志のある市民が集い、支援力を育んで、誰かの役に立つ支援者として育まれる地域拠点：グループゆう」を維持継続してきました。30年が経過し、利用する方に役立つ支援スキルが育まれているかを検証しようということになりました。2024年からは外部評価を取り入れ、今後さらなるスキルアップを目指して学び続けていきます。
- ④ 親亡き後の暮らしについて…グループゆうは、地域に住む乳幼児から高齢者までのトータルサポートが出来たらしいなと考えています。利用する方、その家族の高齢化が進んでいる現状から、親亡き後の安心な暮らしについて、関係者とともに具体的に考えていこうと思います。

新・理事就任の挨拶

理事 中野 広光



このたび、「特定非営利活動法人グループゆう」の理事に選任いただきました中野と申します。ゆう通信誌友の皆様、よろしくお願ひいたします。

私は「グループゆう」とのお付き合いは、私の子がワークスペース歩歩にお世話になるようになったときからですので、かれこれ18年ほどになります。これまでスタッフの方々の熱心さと温かい心遣いに支えられ、本人は元気に通い続けており、保護者である私たち夫婦も様々な面で助けられ支えられてきました。心から感謝しています。

さて、最近気になっているのが、「親なき後」のことです。親がなくなる、または親自身が心身の自由が利かなくなつた後、障がいを持つ子が安心して暮らしていくために、どのような社会の仕組みを利用でき、親はどのような準備をすべきなのか、という問題です。そしてその問題の重要なポイントの一つが、継続してサポートしてくれる組織、つまり「グループゆう」のような存在だと思います。

「グループゆう」の役員のご依頼をいただいたとき、私自身は福祉の専門家ではなく、その方面的知識もないため、重責を務めることができるか不安でしたが、障がいを持つ子の親として、また司法書士という立場から、皆様と一緒に考えることはできると思い、引き受けたこととしました。「グループゆう」の継続や発展に向けて、微力ながらお役に立てるよう努めてまいりますので、よろしくお願ひいたします。

定例総会が2025年5月31日に開催され、全ての議案が提案通り承認されました。今期は、任期満了に伴い谷津理事が退任され、新たに2名の理事が選任されました。なお、理事の互選により、菅野淑江が代表理事に再任されました。



おしらせ

■自立訓練(生活訓練)事業の閉所

2025年4月末をもって、ワークスペース歩°歩°の自立訓練事業を閉所しました。利用されていた方は、地域活動推進センターや就労継続支援B型に移行されました。今後も個々のニーズに寄り添う支援を継続していきます。

■「ファミリーサポート とまりぎ」始動

今年度より地域ニーズを踏まえ、当事者家族や兄弟の相談等の場として「ファミリーサポート とまりぎ」を設置しました。個別相談の他にも交流会や勉強会等も開催する予定です。

サービス内容の詳細や予約方法等につきましてはホームページをご覧ください。⇒
専用メールアドレス:g.yuu.tomarigi@gmail.com



職員会議

総会後の職員会議で、就業規程等の改訂案が承認され、法人の就業規程全般にわたる見直しが行われました。

〔主な改訂〕

●定年年齢の引き上げ

現在の定年年齢を65歳から満70歳に引き上げ、労使双方の了解により最長80歳まで継続雇用が可能になり、より長く安心して働き続けられる環境になりました。

●短時間正職員制度の導入

特定の事業において、週32時間以上の勤務で社会保険加入・賞与対象となる働き方を規定し、多様な就労形態に対応できるようになりました。

理事 成瀬 理沙



この度、新たに理事のメンバーとなりました成瀬理沙と申します。

グループゆうに入職したのは、2011年の4月、児童発達支援センター・仙台市サンホームが仙台市から新たに指定管理事業として受託して一年目の春になります。それまで、保育士として、仙台市内の成人期の生活介護事業や未就学児の児童発達支援事業、保育所等での勤務を経て、当法人にたどり着きました。当時は、NPO法人の意味や役割もよく知らないまま、ただただ目の前の親子のために、子育てや生活の役に立てることはいかと考へる毎日でした。

サンホームの卒園児たちが就学するようになり、少しづつ学童期の過ごしについても考へるようになりました。グループゆうでは『幼年期から学童期、そして成人期まで』と先を見通した支援の構築を大切にしており、放課後デイサービスにも力を入れて取り組んでいました。今自分が関わっている子どもたちはいずれ就学し、そして大人になる…そんなあたりまえのことを、改めて実感するようになり、放課後等デイサービスへの異動を希望し、そこでも多くのことを学びました。また、放課後等デイサービスを卒業した方が次のステージにそれぞれ進んでいく場面にも関わらせていただきました。現在はまた仙台市サンホームに戻り、改めて先を見通した支援や療育について学ぶ日々です。

こうした過程を経て、少しづつ、一つひとつの事業の役割を改めて知り、法人全体を見れるようになり、さらにはNPO法人としての存在意義を確認・実感できるようになったような気がしています。『理事』としての役割についてはこれから新たに勉強していきます。まだまだ力不足ではありますが、グループゆうの一員として、これからも目の前の利用者さんやご家族のために、暮らしやすい地域づくりのために、力を尽くしたいと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

児童発達支援センター・仙台市サンホーム 5領域・療育プログラムの紹介

5領域とは…

仙台市 サンホームの 支援方針

「健康・生活」、「運動・感覚」、「認知・行動」、「言語・コミュニケーション」、「人間」ことが求められています。これらは互いに深く関連しており、全ての領域を含め

乳幼児期から成人期までのトータルサポートの視点を持ち、お子さんと保護者の皆さまお一人お一人に寄り添いながら、「子どもの発達支援」「家族支援」「地域支援」の3本柱として支援をおこないます。

「健康・生活」

子どもたちの健康的な生活習慣の確立と、
日常生活スキルの向上を目指します。

睡眠、食事、排泄など基本的な生活習慣は幼児期において心身の発達に不可欠な要素です。これらの習慣を保護者の方と確認しながら、お子さん一人ひとりの発達に合わせて環境やサポートの仕方を考え、支援しています。また、サンホームではシンプルで同じことの繰り返しを大切にし、子どもたちが安心して過ごせるようにしています。

▶ 食後の歯磨きの様子



▶ 靴下を履いている様子

▲スタッフと一緒にお昼ごはん

「運動・ 身体機能の向

身体的発達と環境適応

全身を使った運動あそび、手指を使って物を操作するあそび、素材を手の平や足裏、からだ全体で感じるあそびを通して、子どもたちは五感（視覚、聴覚、触覚、嗅覚、味覚）と二覚（※1前庭覚、※2固有受容覚）を感じ取り、からだの使い方やボディイメージを育んでいます。自分が思うようにからだを動かせるようになるということは、食事、着脱、準備や片付けなどの生活動作をスムーズに行なう土台になります。

「言語・コミュニケーション」

言語理解・表現力の向上、他者との意思疎通能力の発達を目指します。

言語だけでなく、表情や声のトーン、擬音、歌、抱っこ、スキンシップなどの非言語的なやりとりも大切にしています。お子さんの様々な表現、行動から気持ちをくみとり、代弁し、気持ちを受け止めることで子どもたちが自分の気持ちをわかってもらえた安心感や、さらに相手に伝えたい、という気持ちを育んでいます。また必要に応じて、実物や写真など子どもにとって見てわかる工夫をして、やりとりのきっかけにしています。



▲お母さんとふれあいあそび



▲あそびたい玩
具を指差して
伝えている様子

▲スタッフとのやりとりの様子

「人間関係」

対人関係スキルと社会ルールの習得

親子の愛着関係を基盤としながら、子どもたちの好きなあそびをスタッフと一緒に楽しみ、子どもの気持ちに寄り添い、共感しながら信頼関係を築いていきます。その中で、子どもたちは他者への関心が高まり、人とあそぶことの楽しさやおもしろさを経験していきます。



▲朝のあつまりの様子

令和6年度の制度改定にともない、児童発達支援センター(児童発達支援事業)でも5領域に沿って総合的な支援を行なうよう明記されました。療育の内容は以前から大きく変わりませんが、活動やあそびのしきけ作り(ねらい)、個別支援計画の作成、取り組みの実践など、5領域の項目をより意識して支援をしています。



「関係・社会性」の5つが児童発達支援センターの支援領域となっており、子どもたちの多様な成長を促進するたサポートが不可欠となっております。

仙台市 サンホームの 支援目標

さまざまな活動を通して、子どもたちの発達を保護者の方と一緒に確認しながら、幼児期に大切な「こころ」と「からだ」の成長を促すとともに、自己肯定感を育て、いきいきとその子らしく過ごせるようになることを目指しています。

感覚

上と感覚の統合、
能力の向上を目指します。



▲棒つかまり
あそび
▶春雨
あそび
▲新聞紙あそび
(※1 前庭覚：重力の垂直軸に対して自分の頭がまっすぐであるか、どのくらいどの方向に傾いているかなどを感知する感覚)
(※2 固有受容覚：全身の関節が、どのくらい曲がったり伸びたりしているのか、どの筋肉に力が入っているかなどを感知する感覚)

「認知・行動」

思考力・判断力の育成と行動調整、
学習能力の向上と適切な行動の獲得のための支援を提供します。

五感と二覚を使って子どもたちが十分に楽しめる様々なあそびや活動を通して、子どもたちの探求心や好奇心を育んでいます。子どもたち一人ひとりの興味や“わかること”を大切にしながら、あそびの内容を考え、あそびの中で

“楽しい”“できた”という
経験を積み重ね、自信につなげています。



また、様々な場面でお子さんの行動を認める声かけを意識し、自己肯定感を育みながら、場面に合った適切な行動が定着するよう支援しています。



▲制作あそびの様子

・社会性

社会参加と自立生活の促進などを目指します。



▲お父さんとおままごと

さらにサンホームの小集団でのあそびや活動を通して、友だちと一緒にあそびを楽しむことや友だちとやりとりをすることで、少しずつ場面に合わせた関わり方やルール、順番など社会性を育んでいます。

まとめ

支援内容は5つの領域に区分することは難しく、様々な要素が重なり合っています。だからこそ 私たちスタッフは 日々 “このあそび(活動)は何がねらいなのかという” 支援の意味をしっかりと理解し、ねらいを意識して取り組む必要があると考えています。今後も5領域の要素を意識しながらあそびや活動にしきけ^(※)を作り、子どもたち一人ひとりの育つ力を引き出していきたいと思います。 (仙台市サンホーム／森薦 南)

(※)しきけ…子どもの発達の状態や興味、行動の特徴などをアセスメントし、その結果に基づいて見立てを行った上で、子どもの「やってみたい」「関わってみたい」という気持ちを引き出すために、大人が意図的に設定するあそびや環境の工夫を指します。

仙台市サンホームの支援の詳細は法人ホームページをご覧ください。



外部講師によるコンサルテーションと研修報告

テーマ

アセスメント^(※)の方法と支援への活用

(※)アセスメント…子どもの発達状況や特性、ニーズを把握し、適切な支援計画を立てるために行う評価・情報収集のこと。

～実践に活かす視点と工夫を学ぶ～

取り組みの実践方法

- ① 事前に子ども全員を対象に「何のために(ねらい)」と「何を知りたいか(知りたいこと)」を検討する。
- ② 「いつ」「誰が」「どの場所(場面)で」「どのような方法でアセスメントするか」など取り組み内容を整理する。
- ③ 実際の療育現場でアセスメントを実施している様子を佐々木先生に見てもらう。
- ④ 療育後にクラスごとに佐々木先生を交えて撮影動画を視聴し、子どもの様子から「強みとなるところ」「配慮すべきところ」を分析する。
- ⑤ 自立的に行動できるための工夫や再構造化と次の取り組みについて検討する。
- ⑥ 園長・主任・専門職スタッフが、佐々木先生から職員の人材育成やフォローアップについてのアドバイスをもらう。

アセスメント事例① Mくん

気になる様子 自由あそびの終わりに、気になる玩具を手に取り片付けられない姿がある。

ねらい あそびの切り替え場面において、『片付けること』を教えてみたい。

知りたいこと 整理された環境で、始まりと終わりがわかりやすい遊びなら片づけられるのか。

方 法 個別スペースにて、個別課題に取り組む。一つ終わったら赤い箱への片付けを促す。

結 果 あそびの終わりがわかりやすい課題であることから、赤い箱(終わったものを入れる箱)への片付けはスムーズで、2回目以降は自分から片付けが出来ていた。しかし箱に入れる過程において、完成した物が崩れてしまうことが気になり、やり直す様子が何度もあった。



<佐々木先生からのアドバイス>

●まず今日はなぜ「終わり」にできたのかを考える。好きすぎない物で練習していくのが良い。

●形が崩れることを嫌がるのはなぜなのか?やり直さなくて済むように、崩れないような片付けの箱の工夫があると良い。

(例)箱と机の高さをそろえる、浅めの箱にするなど。

<再構造化と次の取り組み>

片付けの箱を変え、片付けやすいようにしていく。好きな物の片付けについても検討していく。

日時 2025年6月11日(全3回予定の1回目) 講師 よこはま発達クリニック 佐々木康栄先生

2024年度の法人の中期計画における「支援の質の向上」は、設立30年の節目に外部評価を取り入れ、現在の法人の支援の現状を検証し、「できていること」「今後取り組む課題」を知って、今後の支援に活かすことを目的に計画しました。第1回目は幼年期の支援を行う児童発達支援センターで子どもの特性や支援方法を理解し、実際の支援に活かすため、職員が観察や評価の方法を学びました。 仙台市サンホーム／成瀬理沙

アセスメント事例② Gくん

気になる様子 ➤ 好きな活動からの切り替えが難しいことがある。

ねらい ➤ 大好きなおいかけっこで、見通しや終わりを教えたい。

知りたいこと ➤ 写真やイラストの理解はあったが、順番に見通しを提示することで意図が伝わるか。

方法 ➤ おいかけっこを表す絵カードを上から順に3枚貼り、一回捕まえるごとにカードを取り、残りの回数を一緒に確認しながらあそぶ。3回終わったら好きな玩具の写真を貼っておき、次の活動の見通しを伝える。

結果 ➤ おいかけっこを始める前に、スケジュールカードを見せて伝えると、よく注目していた。1回目のおいかけっこで大人につかまえてもらった後に、一枚はがして見せると、2回目が終わった時には自分からカードをはがしはじめた。3回目が終わった時にはしっかりと自分でがし、次の活動のために自分から椅子を取りに行く姿があった。



<佐々木先生からのアドバイス>

● あとどのくらいするのかが見てよくわかっていた。次の魅力的な物を提示していたことで、「終わり」から「次のこと」への切り替えがスムーズにできていたのがとても良かった。

● 終わりにしにくい公園あそびなどでも、例えば石を3個拾って並べ、一個ずつ減らしていき、「これがなくなったらおしまいね」と教える方法もある。見てわかる工夫が大切である。

<再構造化と次の取り組み>

外あそびからの入室時にも時間がかかるため、同じような工夫で切り替えができるのか試してみる。次の活動(お弁当)へのモチベーションが低い場合の工夫も検討していく。

研修を通して

親子通園であるサンホームは、保護者を基軸にたくさんの楽しい遊びを展開しながら子どもの保護者以外の人(職員)との関係構築(安心して関わる事ができる関係づくり)を大切にしています。人と関わる心地よさや、困った時に助けてくれる大人がいる安心感の中で、自分の気持ちを知ったり、整えていくという成長過程を経て、それを土台にしているからこそ「自分でわかって行動する」という次のチャレンジが効果的に積み上げられることを実感しました。

私たち支援者は、日々子どもとの「強み」を見つけ、「育つ力」を引き出し、後押しする役割を担っています。サンホームで見つけた子どもの「強み」やそれを活かす工夫を次の集団の場で活かされる支援にしていくこと、「未来につなぐ使命」を実感する機会になりました。

「マンパワーと技術は引き継げない。だからこそ(子どもにとって)先生たち以外に頼れる物を見つけ、増やすことが大切」という先生の言葉が心に落ちました。



スタッフリレー

職員が職員に質問したり、仕事以外の自由記述から普段は見えない素顔を紹介する企画です。
第18走者「浅野 弘絵さん」から第19走者「石川 久瑠未さん」へバトンが渡されました。

自由記述欄

●第19走者:石川 久瑠未

- 所属:仙台市サンホーム
- 勤続年数:4年
- 出身地:宮城県東松島市



久瑠未さん教えて! ※浅野 弘絵さんからの質問です

●得意なことは何?:

どこでもすぐに眠れることです!

- 1番大切にしているものは?:家族
- 元気になれる場所はどこ?:自宅 or ライブ会場
- 今1番会いたい人は誰?:

推しのアーティストです

●いつか挑戦してみたいことは?:

日本中や海外の色々な場所を巡ってみたい!



第19走者 石川久瑠未さんから、トータルサポートセンターゆうの佐藤 裕信さんにバトンが渡されます。次号もお楽しみに!

おすすめのヨガポーズ!!

私は趣味でヨガをやっています。日頃頑張っている皆様に短い時間でからだをほぐせるおすすめのポーズをお伝えします!

1. 鋤のポーズ

膝を立てた仰向けから、手で腰を支えて両脚、お尻を持ち上げて頭の方に下ろすポーズです。むくみや首・肩こりの解消、内臓機能の活性化などの効果があります!首を痛めやすいため、動かさないように注意してください。



2. 鶯のポーズ

両腕を伸ばして右腕を下にしてクロスし、肘を曲げて手の甲か手の平を重ね、肩の高さまで上げます。左脚のともに右脚を重ねて絡め、股関節を引き込みます。数秒キープしたら手脚を左右逆にして行います。脚力アップや、肩こり改善、集中力が高まる効果があります。腕の動きだけでも肩こりに効きますよ!



おすすめポーズ、ぜひ試してみてください!

30周年イベント・メッセージ募集!



グループゆうは、地域の皆さんとともに歩んできた30年の節目を迎えるました。
このたび、30周年記念イベントに合わせ、皆さんからメッセージをいただきたく
ご協力を願っています。

30周年記念のご案内に同封してあるメッセージカード(ハガキサイズ)にご自由に
ご記入ください。多くの皆さまからのメッセージをお待ちしております♪



ご寄付を
ありがとうございます

ご寄付は、制度で手の届かないニーズへの支援や、環境の整備、研修等に使わせていただきます。
これからも信頼し、応援していただける法人になれるよう事業の質を高め、社会的課題に取り組んで
まいります。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

【令和7年4月～6月】(※敬称は略させていただきます)

阿部宣子、吉田和也、高橋路代、阿部トシ江、近野光枝、谷津尚美、黒澤 哲、渡邊清乙、秋保 明、鈴木久一郎、菅野造園株式会社、高橋虎太郎、特定非営利活動法人 麦の会、梅津工司、特定非営利活動法人 まちづくりスポット仙台、三浦香弥乃、白木悦子、高橋路代、深澤與一、太田弘子、清水八千代、佐藤こず枝、中村祥子、高木真理子、田部愛貴、阿部和樹、加藤 恵、杉田令子、山家由布子、高見久美子、濱名智子、菅野和枝、荒井圭子、安藤雪華子、千葉紗野佳、服部貴美、畠中久美子、鈴木小弥香、江口さやか、成瀬理沙、森薫 南、松木紀子、佐藤春香、石川久瑠未、日下直子、砂金久美子、河岡紗彩、菅野訓代、澤里森子、進藤まき子、丸 登志子、佐々木えい子、永原直子、磯田満晴、佐竹章宏、濱谷香苗、上島香弥乃、伊藤有香、有路通夫、大内昌敏、松浦由紀子、清水福子、阿部 薫、スプラウト 深沢洋介

※ゆう通信は50号より各事業所が編集を担当し発行しています。今号は仙台市サンホームが担当しました。

- 時々、卒園児さんがあそびに来てくれて心がほっこり。こどもたちからパワーをもらっています♪
- 夏休み、我が子とお出かけが楽しみだけど、自分の体力が心配な今日この頃。美味しいものをたくさん食べてパワーチャージするぞ!

発行:認定NPO法人 グループゆう
〒981-3212 仙台市泉区南中山2-12-3
【TEL/FAX】022-376-7679
【ホームページ】<https://www.g-yuu.com>